

健康住宅

高断熱・高気密でからだに優しい生活を

HAVE-S工法の家は

- 高気密
- 高断熱
- 計画換気
- 全館空調
- 湿度管理
- 空気清浄

全て揃った「人」と「環境」にやさしく、温度差のバリアフリーも可能にしたオール電化・高性能・健康住宅です。

断熱・気密性能が悪い住宅の室内温度と病気のメカニズム

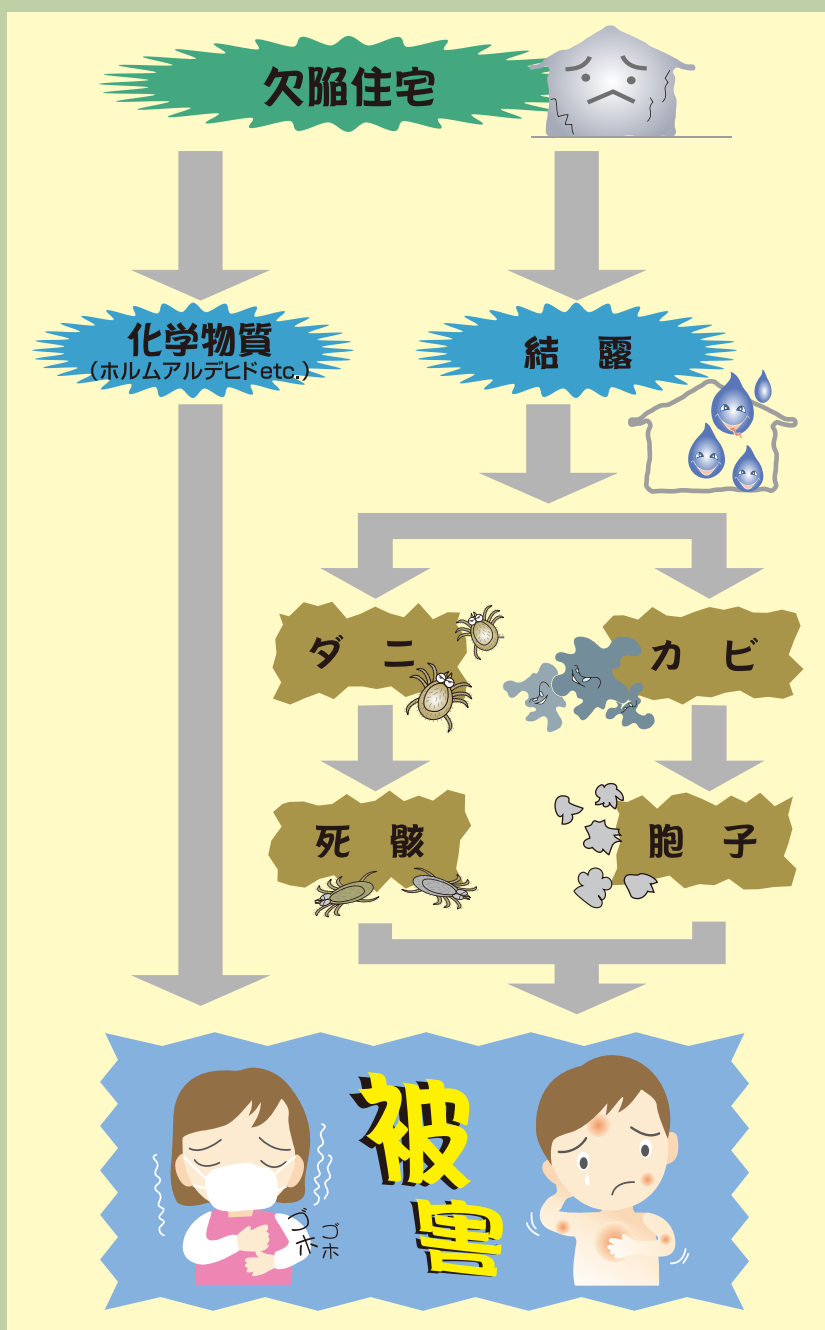
室内の上下温度差が引き起こす主な病気

- 冬の足腰の冷え**
 冬の暖房によって室内の温度差ができ、頭だけ暑く、足腰が冷えることがあります。上下温度差による冷えは万病の元です。
- 夏のクーラー病**
 夏のクーラーの冷気が足腰の部分に集中し、異常に冷えているにもかかわらず、上半身が暑いのでさらにクーラーを強くし過ぎ、足腰を冷やしてことで起る症状です。
- 乳幼児の風邪**
 断熱性能の悪い住宅では、冬は、大人の生活域の暖房と、子供の床に近い生活域との温度差が出来る。その違いに気づかず風邪をひかせてしまいます。乳幼児の夏風邪もクーラーによる室内の温度差に大人が気づかず風邪をひかせてしまう場合が多いようです。

住宅内の温度差が引き起こす主な病気

- 脳卒中の発病**
 風呂・トイレ・廊下での発病が多い病気です。原因の一つにヒートショック(温度差によるショック)が挙げられています。
- 心臓病の発病**
 住宅内の急激な温度差が心臓病の原因となる可能性があります。温度差により血管が急激に収縮し、心臓に負担がかかるからです。とくに高齢者にとっては、その影響が深刻です。

住宅の欠陥が一因となる健康被害のメカニズム

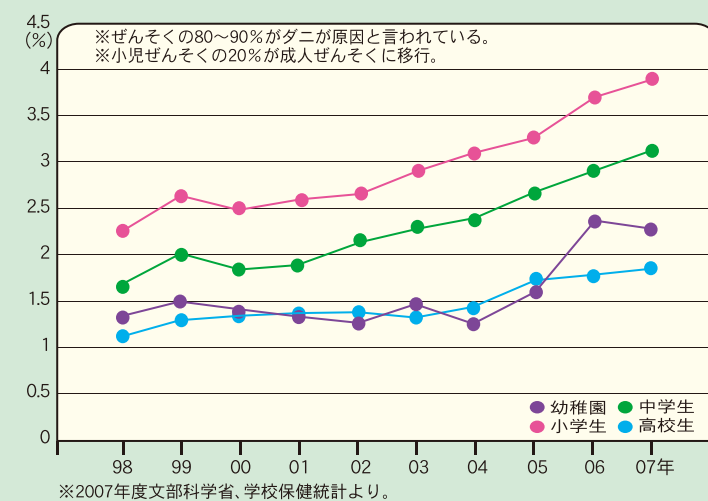


シックハウス症候群

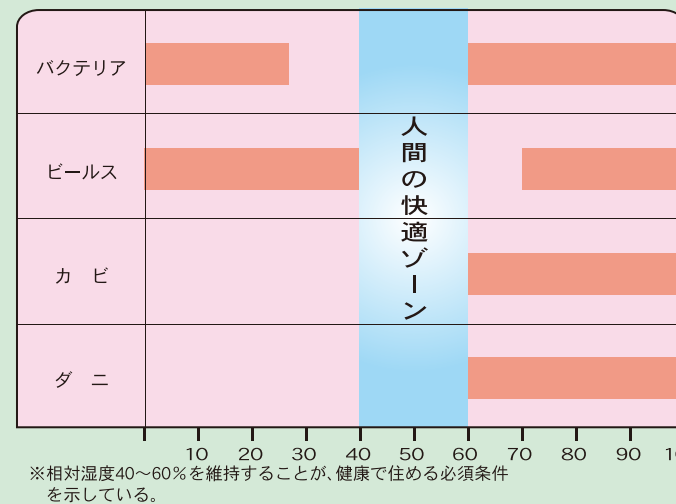
シックハウス症候群は、新築病とも言われるように、新築時に使用される建材や接着剤、塗料などに含まれるホルムアルデヒド等のVOC(揮発性有機化合物)が問題とされています。これを防ぐためには、結露が発生しない住環境と素材の使用、それと室内の計画的な換気が必要になります。結露が発生すると、そこにカビが発生し、それを餌にしてダニが繁殖します。そのカビの胞子とダニの死骸が喘息やアトピー性皮膚炎などのような病気の原因となるアレルギーにもなります。

●からだに悪影響を及ぼす要因の各データ

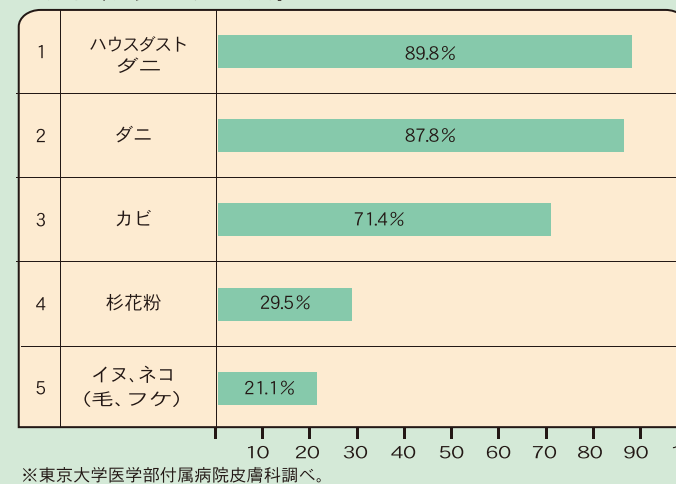
■ぜんそくの子供の割合と増加データ



■ダニ、カビ、ウィルス等の繁殖湿度と人間の快適湿度ゾーン



■成人型アトピー性皮膚炎 アレルゲンワースト5

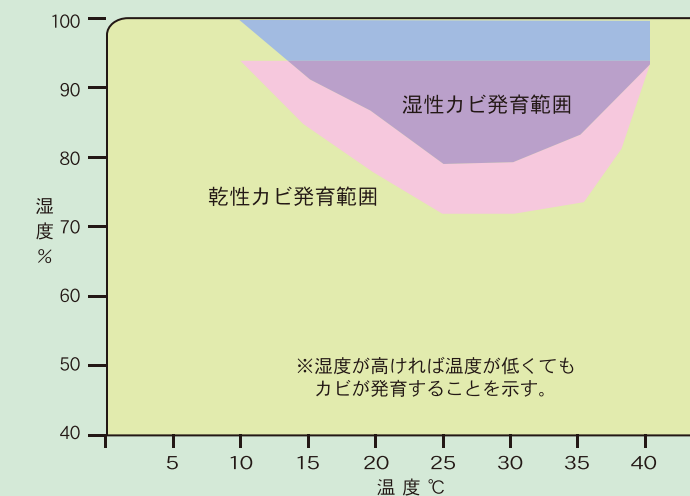


■ぜんそく患者の主要アレルゲン

主要アレルゲン	患者数	割合
ハウスダストダニ	491	49.1%
カビ	237	23.7%
絹	154	15.4%
ソバガラ	148	14.8%
羊毛	143	14.3%
ネコの毛	78	7.8%
杉花粉	64	6.4%

※ぜんそく患者1,000例のデータ(アレルゲンの重複患者も含む) ※東京大学医学部付属病院皮膚科調べ。

■カビの発育と湿度、温度の関係



■ダニの増殖と相対湿度の関係

